

総 説

- 1) 久保田 競 (1973): 前頭葉の機能の神経生理学的研究。科学 (3月号) 147-154。

論 文

- 1) Matsunami, K. and K. Kubota (1972): Muscle afferents of trigeminal mesencephalic tract muscles and mastication in chronic monkeys. *Jap. J. Physiol.* 22:545-555.
- 2) 久保田 競 (1973): 視床背内側核のはたらきと前頭葉について。神経研究の進歩17: 227-228。
- 3) Kubota, K., H. Niki and A. Goto(1972): Thalamic unit activity and delayed alternation performance in the monkey. *Acta neurobiol. exp.* 32:177-192.
- 4) 久保田 競 (1972): 随意運動と脳活動—サルの随意運動とニューロン活動について—。脳波と筋電図 1: 10-17。
- 5) Thompson, F.J., J. Fernandez, H. Asanuma and K. Kubota(1973): Relationship between 3a sensory cortex and motor cortex in the cat. *Fed. Proc.* 32:340. Abs.

学会発表

- 1) 求心路をしゃ断された状態でのサルの錐体路細胞の活動と条件把握運動
弓矢治秀・久保田競¹
第49回日本生理学会大会 (1972)
- 2) 視床, 背内側核刺激に対する「遅延ニューロン」の反応について
酒井正樹・岩木隆茂・久保田競
第49回日本生理学会大会 (1972)
- 3) Prefrontal cortical unit activity during delayed alternation (DA) in monkeys.
Hiroaki Niki
Second Meeting of Soc. for Neurosciences (1972)

心理研究部門

室伏靖子・井深允子
浅野俊夫・小嶋祥三

研究概要

- 1) 切断脳ザルにおける視覚情報の伝達と反応決定¹⁾

¹⁾ 久保田競 (神経生理部門), 本吉良治 (京大・文), 原一雄 (国際基督教大学・心理) との共同研究。
²⁾ 文部技官

室伏靖子・南雲純治²⁾

種々の視覚情報を手がかりとした反応時間の測定, 時間まちの反応および選択行動形成の過程を分析する。

- 2) 強化スケジュールの検討

浅野俊夫

比率強化スケジュール (定比率, 変動比率スケジュール)。

- 3) 動物の記憶のメカニズム

井深允子

1. 主として視覚的短期記憶の処理過程を Delayed Matching to Sample Task における遅延時間を関数として分析する。

2. 視覚的短期記憶と生理学的背景機構との対応をみるため側頭葉 (下部側頭回) との関連を破壊実験によって確かめる。

- 4) サルの自己刺激に関する研究

小嶋祥三

刺激強度—反応率, 刺激強度—長さ, 定比率強化スケジュールの検討。

- 5) サルの行動パターンの分類と尺度化

室伏靖子・南雲純治

動機づけや学習理論により, サルの社会的行動パターンを解析する。

総 説

- 1) 浅野俊夫・室伏靖子 (1972): 霊長類におけるコミュニケーション研究の動向。言語 1: 484-492。
- 2) 浅野俊夫 (1972): 特集「心理学におけるインストラメンテーション」(心理学評論, Vol. 13, No. 2, 1970) についてのコメント。心理学評論 15: 104-105。

論 文

- 1) Hasegawa, Y., N. Ibuka and S. Iwahara (1973): Effects of chlordiazepoxide upon successive red-green discrimination responses in Japanese monkeys, *Macaca fuscata*. *Psychopharmacologia [Berl.]* 30:89-94.

学会発表

- 1) ニホンザルにおける強化スケジュールの検討 (その1): VIスケジュール及びメタンフェタミン

浅野俊夫・井深信男

日本動物心理学会第32回大会 (1972)

- 2) ニホンザルにおける強化スケジュールの検討 (その2): FIスケジュール及びメタンフェタミン

井深信男・浅野俊夫

日本動物心理学会第32回大会 (1972)

- 3) ニホンザル実験群における社会的距離の分析
室伏靖子・南雲純治
日本動物心理学会第32回大会 (1972)
- 4) ニホンザルの継時弁別反応におよぼす chlordiazepoxide の効果
長谷川康夫・井深允子・岩原信九郎
日本心理学会第36回大会 (1972)
- 5) 中隔部電気刺激による誘発行動と自己刺激
小林博次・山中祥男・小嶋祥三
日本心理学会第36回大会 (1972)
- 6) シロネズミのスキナー箱反応と弁別学習に及ぼす内側視床下部破壊の効果
永井洋一郎・小嶋祥三・他
日本動物心理学会第32回大会 (1972)
- 7) シロネズミの視床下部電気刺激による誘発行動と自己刺激の関係
菅原和竹・山中祥男・小嶋祥三・他
日本動物心理学会第32回大会 (1972)
- 8) シロネズミの active avoidance に及ぼす視床下部電気刺激と破壊の効果
山中祥男・川口 武・小嶋祥三・他
日本動物心理学会第32回大会 (1972)

社会研究部門

川村俊蔵・河合雅雄
東 滋・鈴木 晃

研究概要

- 1) ニホンザルの分布論的研究
川村俊蔵・東 滋
前年度までの研究資料のまとめ、ならびに丹沢山地その他で若干の新しい調査を行なった。
- 2) 野生ニホンザルの群れ社会の研究
 - 1. 率島の群れを対象に、全個体の識別と個体の生活史をふまえて、社会変動に関する研究を行なった。また森は、メスの順位構造に関する研究を行なった。
河合雅雄・森 梅代¹⁾
 - 2. ニホンザルのコドモの遊びと社会関係
森 梅代
率島の infants, juveniles を対象に、群れの全個体の識別と個体追跡法により、遊びに関する質的、量的データを収集した。年令・性・血縁関係を3つ

の軸として、遊びを通じての発達と社会関係を分析した。

- 3. ポピュレーション分布、および遊動と環境要因に関する研究

東 滋

下北半島の群れを対象に、積雪地における群れの分布のあり方、ポピュレーション動態、遊動の状況を、主として植生と地形との関連において検討した。

- 4. 下北半島のニホンザルの社会生態学

東 滋

ニホンザル自然群の遊動・食性・土地利用を、生息環境の構造、その季節的変動とサル生活現象の年内リズムの両側面からとらえる。

- 5. ニホンザルの個体群の維持・生活の維持におよぼす森林施業、その他の human impact の影響

東 滋

- 6. 福井県音海の群れにおいて、個体関係を時間軸、つまり発達と因果関係をふくめて質的及び量的に把握し、社会行動学的な意味を探究した。

川村俊蔵・渡辺邦夫²⁾

- 3) 海外調査に関するもの

- 1. アフリカにおける霊長類の生態学的研究 (特別事業による)

鈴木 晃

昭和47年8月6日から昭和48年6月1日まで、タンザニア、ケニア、ウガンダで、霊長類の生態学的研究を行なった。主としてウガンダのブドンゴの森において、チンパンジーの社会生態学研究を行ない、同時に数種の狭鼻猿についても同様の研究を行なった。

- 2. 熱帯降雨林における樹上性霊長類の社会生態学的研究

河合雅雄・東 滋

ウガンダの森林で行なった研究を中心に、森林性霊長類の適応と社会構造について考究した。

- 4) 自然保護に関する作業

川村俊蔵・東 滋

岐阜県全域、鈴鹿有料道路 (継続)、兵庫県美方町、神奈川県渡川村において自然保護に関する基礎調査ならびに意見具申を行なった。

- 5) 農林業に影響を及ぼす野生獣類の管理に関する研究

川村俊蔵・東滋・和泉剛³⁾・宮木雅美⁴⁾

昨年に引きつづき、四手井綱英を代表者とする上記研

²⁾ 京大大学院学生

³⁾ 研修員

⁴⁾ 研修員

¹⁾ 教務職員